

長崎北病院 伝言板 5月号

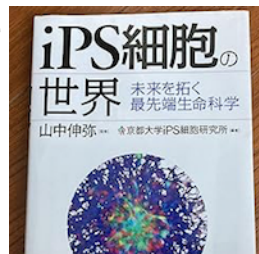
令和7年5月1日発行

皐月5月。気持ちの良い季節。3月までは気温が低くて、桜の開花も遅れました。最近のポカポカ陽気で花々が一斉に咲いています。5月の別名は「早苗月」田植えが始まる月。今年は豊作になって欲しい。昨今はお米の値段が2倍以上。1993-94年には冷夏による大凶作で本当に米がなくなり、パサパサのタイ米を食べたりしました。でも今回は米はあるけど値段は2倍。なんかおかしい。誰か悪いことしてない？



「iPS細胞：人工多機能幹細胞」

最近の話題。4月17日の新聞に「iPS細胞でパーキンソン病の症状改善」という記事が載っていました。新聞各紙やテレビなどで大きく報道されました。それ以来、受診されるパーキンソン病患者さんの手に新聞記事の切り抜きが。関心の高さにびっくりしています。そこで少しパーキンソン病のiPS治療についてお話ししてみたいと思います。パーキンソン病は脳内でドパミンという神経伝達物質を作る「ドパミン細胞」が減っていく神経難病です。原因はまだわかっておらず、お薬やリハビリテーションで症状改善はできますが根本的治療法はまだありません。iPS細胞は2006年に山中伸弥教授らが開発。成熟した細胞にある遺伝子を入れることで、あらゆる細胞に分化できる能力をもつ細胞を作り出しました。細胞の先祖返りです。これがiPS細胞であり、2012年にノーベル賞を受賞。iPS治療は、この各種細胞に変化する能力をもつiPS細胞からパーキンソン病で減少しているドパミン細胞を作り出し、脳内に注入（移植）してドパミンを作らせようという治療法です。



これまでiPS治療の治験（臨床試験）を受けたのは7名。安全性の問題はなし。4名で有効。「安全性と有効性が示された」ということで、製造、販売の承認申請を行うとの記事でした。臨床で利用できる可能性が出てきたということで 患者さんの期待は非常に大きいと思います。しかし、近い将来に利用できるか、皆さんに使えるかとなるとまだまだハードルがあると思います。一般的に薬の臨床試験は4段階あり、3段階目まで合格すると薬として認められます。第1相の安全性評価と第2相の少数例での有効性評価は終了。通常は多数の患者さんについて、有効性、安全性、使い方を確認する第3相試験が行われます。現在のところは第1、第2相試験が終了した時点。第3相試験を行わないで認められるかどうか。ドラマ「下町ロケット」にも出てきた独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)の厳しい審査を通らなければ医薬品として認められません。次の問題は生産力。通常の医薬品と違って、人の細胞(iPS細胞)を培養で増やし、それをドパミン細胞に変化させ、ドパミン細胞だけを取り出すという作業が必要です。大量生産が可能かどうか。次はお金。現状では一例千万単位の費用がかかるでしょう。安くできるか、そのお金はどこから。そして手技。頭蓋骨の両側に穴を開けて脳深部まで針を刺し、正確な位置に細胞を注入しなければなりません。実施できる施設は限られます。そう考えると希望は出てきたが、すぐに誰にでも適用出来るという話ではなさそうです。年齢や体力なども関係するでしょう。パーキンソン病の治療薬の効果が十分にあることがiPS治療の条件でもあります。

今は遠くに光が見えてきた段階です。薬として承認され、公的医療保険が適応となり、実施施設が選定され、治療が開始されるまでしばらくかかります。それまで現在出来る薬物中心の治療とリハビリテーションで良い状態、iPS治療ができる状態、を保っていることが大切です。今やれること、やるべきこと、良いと言われていることをやりましょう。(A.S.)

